



京傳翁戲編

通油町鶴喜板

13  
2946  
59



59  
13  
2946  
59  
特

假多手綱忠臣鞍序

國字盛衰記第二斷馬の鞆の（此の鞍）

怪我の多し之れを以てのしゆき意の駒はもひ抑生

世とて隙行駒のしるきく駒止石もさりの死ハ

光陰の早馬身人間萬事塞翁が馬乃後足も立者と

かる日あり立者又おひまみとかる時あり曲馬の虚名馬

市の薄利豈益のんやとてちんふん韓退之が千里

乃馬伯樂多れかたをたけけく誰とて讀るかか

手木腰付馬の善惡邪正人の心は侶とてをり鳴呼

佐木金言宜哉

寛政十三辛酉正月

山東京傳誌





桃の葉の  
 影をうけて  
 しのぶの  
 花はさか  
 しくはな  
 りて  
 春の光  
 景を  
 照らす  
 ことぞ  
 めでた  
 きなり



桃の葉の影をうけて  
 しのぶの花はさかしく  
 はなるとして  
 春の光景を照らす  
 ことぞめでたきなり

桃の葉の影をうけて  
 しのぶの花はさかしく  
 はなるとして  
 春の光景を照らす  
 ことぞめでたきなり

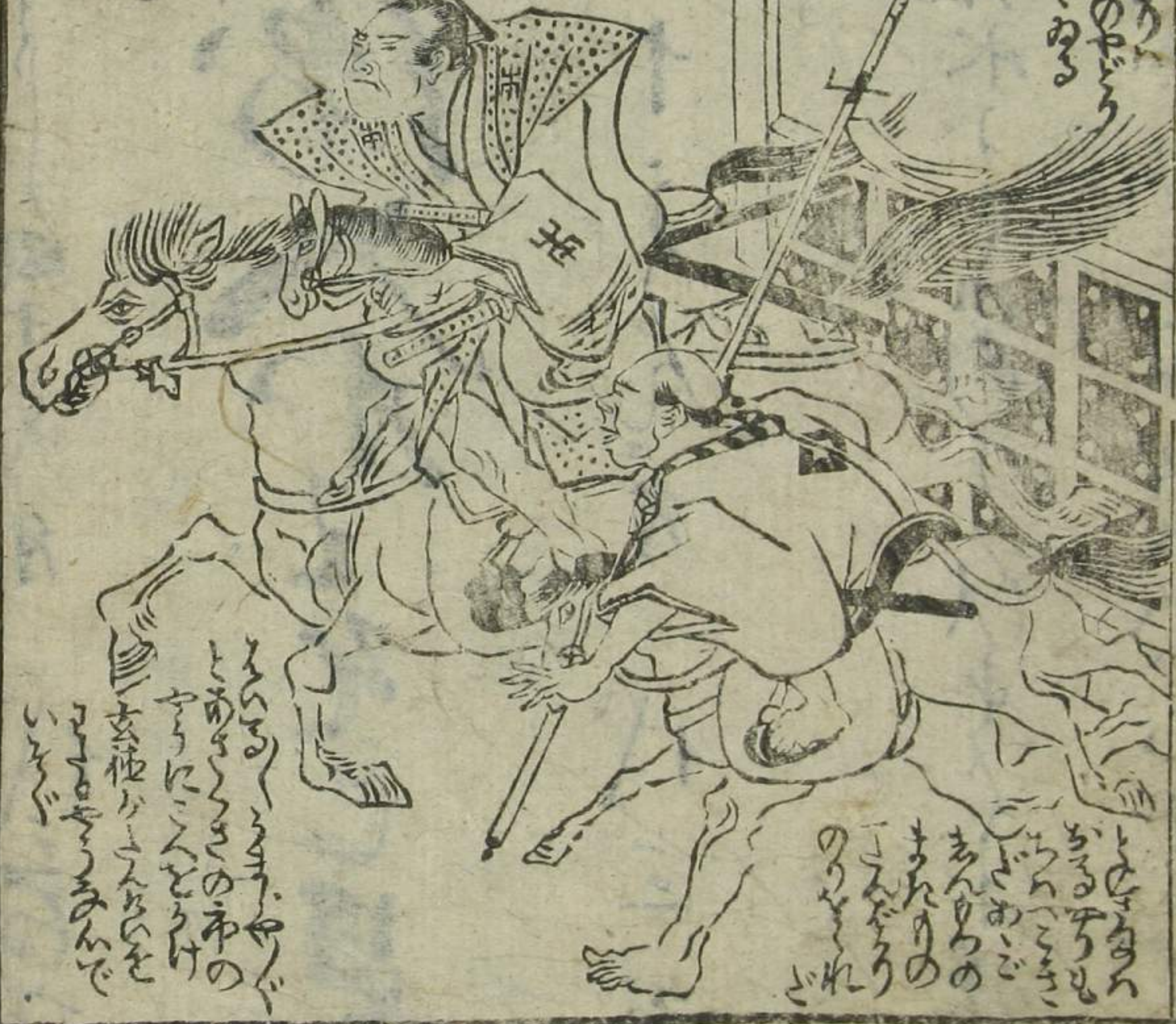


桃の葉の影をうけて  
 しのぶの花はさかしく  
 はなるとして  
 春の光景を照らす  
 ことぞめでたきなり

桃の葉の影をうけて  
 しのぶの花はさかしく  
 はなるとして  
 春の光景を照らす  
 ことぞめでたきなり



りんねんがのこめあか  
 上るよてもうつけの  
 こころあはれいさうあはれ  
 のまふあはれぞうまいたの  
 かかりさうのつてゆり  
 みながやとことし  
 けまうらさるてく  
 のららぐらてしんら  
 むんさうさるてく  
 とのうかけるといこと  
 ばとれようぞとまりり  
 ひらひらひら



とつてあはれ  
 みるすうも  
 ちんこも  
 ともい  
 まんら  
 まんら  
 せん  
 のり  
 どれ

りんねんがのこめあか  
 上るよてもうつけの  
 こころあはれいさうあはれ  
 のまふあはれぞうまいたの  
 かかりさうのつてゆり  
 みながやとことし  
 けまうらさるてく  
 のららぐらてしんら  
 むんさうさるてく  
 とのうかけるといこと  
 ばとれようぞとまりり  
 ひらひらひら

りんねんがのこめあか  
 上るよてもうつけの  
 こころあはれいさうあはれ  
 のまふあはれぞうまいたの  
 かかりさうのつてゆり  
 みながやとことし  
 けまうらさるてく  
 のららぐらてしんら  
 むんさうさるてく  
 とのうかけるといこと  
 ばとれようぞとまりり  
 ひらひらひら



りんねんがのこめあか  
 上るよてもうつけの  
 こころあはれいさうあはれ  
 のまふあはれぞうまいたの  
 かかりさうのつてゆり  
 みながやとことし  
 けまうらさるてく  
 のららぐらてしんら  
 むんさうさるてく  
 とのうかけるといこと  
 ばとれようぞとまりり  
 ひらひらひら

あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの



あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの



あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの

あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの

あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの

あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの







あつちのやうな人  
おとせしめしめしめ  
のいぢめしめしめしめ  
うかひしめしめしめ  
ゆ



あつちのやうな人  
おとせしめしめしめ  
のいぢめしめしめしめ  
うかひしめしめしめ  
ゆ

あつちのやうな人  
おとせしめしめしめ  
のいぢめしめしめしめ  
うかひしめしめしめ  
ゆ

あつちのやうな人  
おとせしめしめしめ  
のいぢめしめしめしめ  
うかひしめしめしめ  
ゆ



あつちのやうな人  
おとせしめしめしめ  
のいぢめしめしめしめ  
うかひしめしめしめ  
ゆ

あつちのやうな人  
おとせしめしめしめ  
のいぢめしめしめしめ  
うかひしめしめしめ  
ゆ



一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、



此の如く  
 一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、



山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の

山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の



山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の

山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の



〆〆〆  
 〆〆〆  
 〆〆〆  
 〆〆〆

〆〆〆  
 〆〆〆  
 〆〆〆

〆〆〆  
 〆〆〆  
 〆〆〆  
 〆〆〆  
 〆〆〆  
 〆〆〆  
 〆〆〆  
 〆〆〆  
 〆〆〆  
 〆〆〆



〆〆〆  
 〆〆〆  
 〆〆〆  
 〆〆〆  
 〆〆〆  
 〆〆〆

〆〆〆  
 〆〆〆  
 〆〆〆  
 〆〆〆

天川屋  
 今場帳  
 湯火帳  
 福帳  
 此帳は人の心算の  
 なるものなり  
 湯火帳は  
 湯火の出入り  
 を記すなり  
 福帳は  
 福の出入り  
 を記すなり  
 今場帳は  
 今場の出入り  
 を記すなり



天川屋

湯火帳  
 福帳  
 今場帳  
 此帳は人の心算の  
 なるものなり  
 湯火帳は  
 湯火の出入り  
 を記すなり  
 福帳は  
 福の出入り  
 を記すなり  
 今場帳は  
 今場の出入り  
 を記すなり







此の馬は...  
 人の...  
 ...  
 ...  
 ...



...  
 ...

京傳戲作

...  
 ...



...  
 ...

